

読者のお便り



「ありがとう」

5月号の「1冊につき80円の寄付」の文字を見て嬉しくなりました。大震災から封印していたオシャレ心に久々に火をつけてくれたこと、被災地の方たちへの、自分なりに、何か役に立ちたい、という気持ちを代弁してくれたこと。震災当日は私も夫も仕事、娘はドイツニerlandでした。メールで無事は確認できたものの、家族が再会したのは翌日の午後。鉄道が止まり、1時間かけての自転車通勤や計画停電に振り回されながらの家事、物資不足の中のスーパー通い……。生活するのに必死で、春物や化粧品を買おうと思えず、

被災地の方々を思えば我慢……という日々でした。5月号が発売され、久しぶりにショッピングへ。いつもより暗い店内、本数の少ない電車。それでも十分楽しかった！今までが恵まれすぎてたんですね。ほんの少しの不便でも十分暮らしていけます。被災地の早期復興を願います。

(埼玉県 46歳 匿名希望)

これからも「読者参加型」で

5月号では、12月号のチャリティの報告がありました。自分の80円が寄付金としてどのように反映されているかわかり、嬉しかったです。遠い国まで

ガスカルの子供たちの笑顔が増えるといいな、と思いました。だからこの号を手にとった時も、微力ながら読者として被災地の方を支援したくて……。今後もこのような形の、オシャレで元氣の出るファッション誌であってくださーい！

(神奈川県 40歳 匿名希望)



これが新たな一歩に

高齢出産、そして慣れない子育てで心身共に疲れていた時、立ち寄った本屋でふと目に入ったSTORYの表紙。そこには「1冊につき80円が義援金として寄付されます」という言葉が。思わず手に取ってページをめくると、そこにはそれぞれの生き方を築き輝いた皆さんの笑顔がありました。社会から孤立した気持ちになっていた私を励ましてくれていたようでした。軽やかに

な気持ちでSTORYを購入し、寄付を始めたところから私の「STORY」がスタートしました。

(静岡県 匿名希望)

みんなで頑張りたい

大震災の後、友人とスーパーに買物に出かけました。すると、すごい列ができていてびっくり！案の定、トイレトーパーやペットボトルの水を買い占める人が続出していました。友人は「これじゃ被災地の人たちに物資が送れなくなるじゃないの！」と、店長に直談判。その店長は「お一人様2点まで」という張り紙を貼り、店内放送もしてくれました。いつもおとなしい友人ですが、すごいなあと感心。こうした有事にこそ、心をひとつにして頑張りねばと思います。

(東京都 45歳 匿名希望)



お便りをお待ちしております

今回は、チャリティ号に賛同するお言葉をたくさんいただきました。どのお便りも、編集部員全員で大切に読ませていただきました。「ありがとう」という言葉を頂戴しましたが、御礼を言うのは私たちのほうです。読者の皆さまに感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。これからも「雑誌として何が出来るか」を「長い目」で考え続けていきたい。そして皆さまに寄り添う雑誌でありたいと、そう願っています。

6月号はいかがでしたか？「STORY」を読んだ感想や身の回りのこと、ご自身のストーリーなどをお送りください。また、匿名希望の方はその旨明記してください。掲載させていただいた方には¥5,000をお送りいたします。

宛先 〒112-8011 東京都文京区音羽1-16-6
(株)光文社 STORY編集部 「MAIL BOX」係

※お便りは返却いたしませんのでご了承くださいませ。